

変形性膝関節症

骨切り術

骨切り術とは、膝関節での体重のかかる部分をするために大腿骨（太もも）または下腿骨（脛の骨）を切り、脚の向きを変える手術です。

日本人では、O脚の人が多く、体重が内側にかかるため内側がすり減るので体重を外側にかかるように脛の骨を切りO脚を直すことで、痛みを軽くし、特に動きを改善させる手術です。

変形が内側に局限し、外側の軟骨が正常など比較的早期の人が対象となります。

目標は、体重のかかり具合を正常は軟骨が残っている部分に移し、理想的な脚の形にすることで膝関節の延命を図ることです。

つまり、自分自身の膝関節を温存することで、人工膝関節手術の時期を遅らせることができ、その間は膝に負担の制限がなくなります。ジョギング、ジャンプ競技などスポーツに制限がありません。

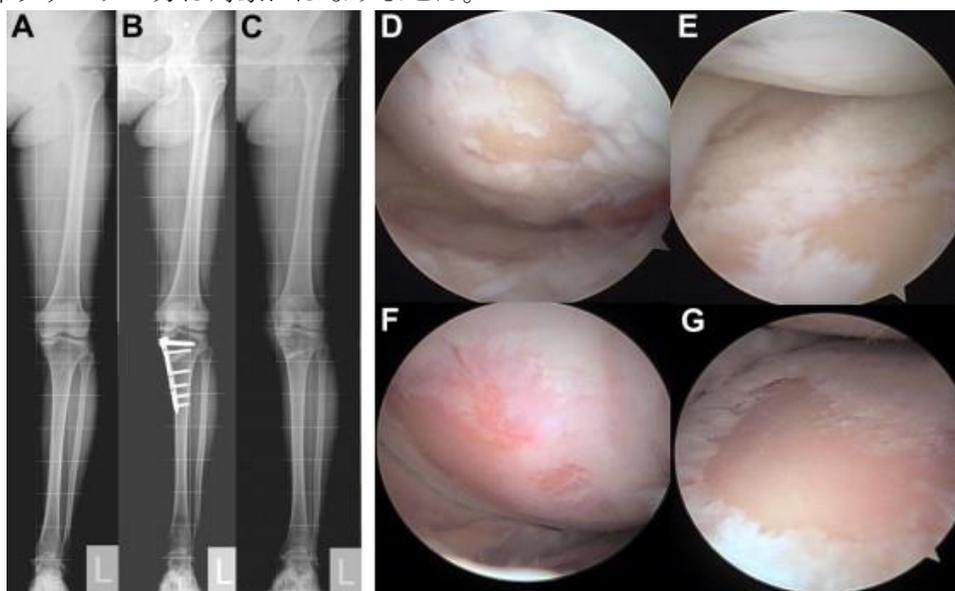
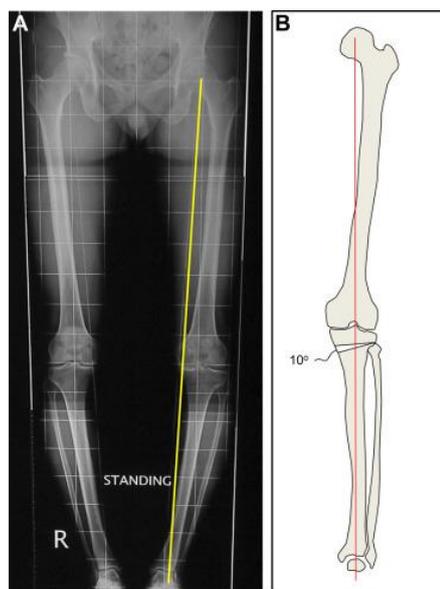
欠点としては、まず人工膝関節手術に比べて痛みの軽快する程度が低いことです。

また、回復までの時間がかかります。

手術の対象年齢は、40～60才です。その他の条件としては

- ① 骨粗鬆症がない
- ② 膝が真っ直ぐ伸びて、よく曲がること。
- ③ 靭帯損傷がないなどが挙げられます。

関節リウマチの方は対象にはなりません。



手術について

麻酔は、全身麻酔、腰椎麻酔、硬膜外ブロックなどがあります。

手術時間は、1～2時間です。皮膚切開は10cm程度です。脛の骨に切り込みを入れ、その部分を理想の脚の角度になるまで開き、その部分に人工骨を置き、プレートで固定します。皮膚は、吸収される糸で縫合され、その上には傷の治癒を促進させる特殊なテープで覆いますので、ガーゼ交換、抜糸はありません。

手術後

手術翌日から、松葉杖で歩く練習と膝の屈伸の練習が始まります。体重のかけ具合は、術後3週間程はつま先をつける程度ですが、その後は、痛みに応じて徐々に増やしていきます。術後6週間程度で松葉杖が取れます。

通常の日常生活に戻れるには3～6か月かかります。

合併症

- ・感染
- ・血栓（深部静脈血栓症、肺塞栓）
- ・可動域制限（膝の曲げ伸ばしに制限）
- ・骨癒合不全

まとめ

骨切り術は、痛みを和らげ、膝関節の変形を遅らせることができる手術です。今後数年は引き続き激しいスポーツを希望する若い年代の患者さんに勧められます。しかし、多くの患者さんはその後人工関節置換術を受けることになります。